

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0193600319		
法人名	社会福祉法人 鶴川慶寿会		
事業所名	高齢者グループホーム ふきのとう		
所在地	北海道勇払郡むかわ町田浦250番地		
自己評価作成日	令和1年8月26日	評価結果市町村受理日	令和1年12月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0193600319-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和1年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士が入居者の変化に気づき、お互いに話しあえる環境である。 ・変化のない生活の中に行事や運動・レクリエーション等を取り入れ、楽しめる毎日になっている。 ・自分で行える事が少なくなっている毎日の生活の中で出来る事が継続して行える様、支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、むかわ町の西方向にある田浦地区に位置し、閑静な地域にある平屋建て1ユニットのグループホームである。隣接して、同法人の高齢者共同生活住宅や町立保育所があり、園児と楽しく交流できる合同での行事も行っている。法人は、社会福祉法人で特別養護老人ホームを主として運営しており、町民からも信頼が厚く、グループホームは町からの指定管理者として運営している。ホームは、天井が高く欄窓があり、明るく、リビングや廊下も広くゆったりしており、利用者はリビングで、日中は寛いでゆったりのおんびり過ごしている。外には花壇や菜園もあり、季節を感じられる。介護記録等には、ITシステムを導入し、タブレット端末で入力し、法人グループ内で共有できるなど作業の効率化も研究している。家族は毎月利用者に面会に来るなど、認知症高齢者介護の事業所として、町と連携して認知症の理解普及の広報活動に協力するなど地域への貢献も行っているグループホームで、これからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、事業所内に掲示し、ホーム便りにも掲載し、ホーム便りにも掲載し、家族へも周知をしている。ミーティングや会議などで唱和して、共有し実施につなげている。	事業所の理念は、事業所内に掲示し、ホーム便りにも記載して、利用者や家族にも周知するよう努めている。職員が理念を記載したカードを所持し、ミーティングや会議などで唱和して、職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入。運営推進会議・地域行事参加。隣接する高齢者共同生活住宅ごみ荘と、保育園との合同でクリスマス会を開催したり、お祭りで子供神輿が来るなど、日常的に地域との交流をしている。	自治会に加入しており、町の敬老会やふれあい広場、社会福祉協議会の行事、保育園の運動会などへ参加したり、保育園と合同でクリスマス会を開催するなど日常的に地域との交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事等へ入居者様と一緒に参加している。認知症の相談・講演等の依頼があれば、対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の活動や取組状況を報告。交流会開催等をしている。そこでの意見をサービス向上に努めている。運営推進会議は、町職員や自治会の役員、家族が参加。	運営推進会議は、家族や自治会役員、町職員などが参加して、定期的に行われ運営状況の報告を行い、情報交換や意見交換を行ってサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、町担当者に入って頂きアドバイスを頂いている。普段の状況説明や相談に活かしている。協力関係を築けるよう取り組んでいる。	運営推進会議に町職員が参加しており、定期的に情報交換している。また、法人が社会福祉法人な為、施設周辺の補修や環境整備などの協議を行うため、日常的に連携して取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はせず、外へ出掛ける方へ対しても安全確保の為見守り、付き添いをしている。	身体拘束をしないケアについては、指針やマニュアルを整備して、外部研修会に年1回職員が参加して、内部研修として参加者が伝達講習を行って、身体拘束しないケアに職員全体で取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについての事例の検討会が定期的に行われていないため、スタッフ会議の中で、3ヶ月に1回事例に基づく検討会を定期的に行うことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議で勉強会を開き、防止に努めている。認知症基礎研修で虐待防止等に関する事を学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいないため行なえていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改正等がある時には、書面で郵送し署名捺印を頂いている。不明な点等があればその都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見や不満がないか日頃から観察している。面会時には家族様からの意見を反映できるように努めている。	ホーム便りを毎月発行して、運営状況を家族に報告している。利用者毎の生活状況は、3ヶ月に1回手紙にて報告している。玄関に意見箱を設置しており、家族交流会を年1回開催している。家族からの意見や要望は来訪時に殆ど聞き取り運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で、事業運営に関する意見を求めている。	スタッフ会議は月1回開催し、ケア会議も月1回行っている。個人面談は、目標管理シートに基づき上司・管理者・役員と年間通して行っており、職員からの意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを使用し給与への繁栄や定期昇格や資格取得で正社員など意欲を引き出せるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足の為、外部研修の機会が減っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	職員不足の為、出来ていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には見学や面談によって、要望に沿えるように援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には見学や面談によって、要望に沿えるように援助している。申し込みの相談を受けた段階で本人と家族に対して見学を勧め、ホームの雰囲気を見て頂く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在は新規入居者がいない為、行っていない。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ほぼ出来ている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に現在の様子や近況報告を家族へ説明し、互いの理解が深まるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内の食堂へ食事へ行ったり、町内のスーパーへ買い物・ドライブへ行っている。また、町行事に参加をし関係が途切れない様になっている。	町内の行事に参加して、友人・知人の関係継続の支援をしている。お墓参りは家族が同行して外出しているが、病院の受診や食材の買い出し時に職員に同行してドライブやスーパーなどへ外出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話のきっかけを作ったり、橋渡しなどスタッフがやっている。レクリエーションの場を毎日設けるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の特別養護老人ホーム入所へ経過があり、家族との関わりを持てるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言葉を大切に、記録に入力している。意思疎通が難しい場合にも寄り添ってケアに繋げていけるよう努力している。	日常生活の中から、介護記録に基づいて、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段から本人の言葉を記録に残して、家族からの情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し、本人が出来ることを探し実施。定期的ケア会議により、日頃の状況についての把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで介護計画の評価、見直しを行っている。入居者・家族様にはその都度意見を求めて反映している。介護計画作成時は、事前に家族様から要望を聞き、近況報告に努めている。	利用者毎の担当者が介護計画のモニタリングをして、計画作成担当者が原案を作成し、カンファレンスで全体で検討して、家族からの意見等もまとめて現状に即した介護計画を作成している。見直しは半年サイクルで行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議を毎月行い、見直し情報を共有し、入居者の様子や状態の変化を日頃から観察し、記録をその人の言葉で文章に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に合わせたケアを実施。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	習字(二か月に一回)・紙芝居(月に一回)、ボランティアの人に入ってもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の受診は職員が付き添う。	協力医療機関は、2ヶ月に1回職員が同行して受診している。緊急時も連絡して対応できるよう連携して支援に取り組んでいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないが、体調不良時は速やかに受診に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は担当の看護師と連絡を取り合い、早期退院できるよう医療機関と情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に説明しており、重度化した場合に再度意向を確認して、同法人の施設や医療機関の紹介など適切な対応をしている。	重度化や終末期の対応は、入居契約時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、再度意向を確認して、法人内の施設や医療機関の紹介など適切な対応をしている。また、AEDも整備しており、職員が研修を受けて活用できる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命実務研修に職員参加し、実践を身につけ、定期会議等で伝達している。救命処置(AED)を全職員が実践力を身につけるように努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応マニュアルを設備し、避難誘導を実施している。また、消防に協力要請を行っている。二か月に一度自主訓練を行こなっている。	火災の避難訓練は、年2回消防署の指導の下、自治会の参加協力により定期的実施している。また、2ヶ月に1度通報装置の確認を行っている。マニュアルやヒーター等の備品を整備して、地域と連携した災害対策を行っている。	火災の避難訓練は、定期的に行っているが、地震など自然災害による停電などの対策として、発電機などの備品を早めに整備することを期待する。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で言葉かけなどを心がけているが、お互いに注意できていない場合もある。	人格の尊重とプライバシーについては、年度初めにマナー研修を実施して、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い表出しやすいような関わりを心がけている。希望が言い易い雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々のペースで生活して頂けるように、努力し心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や施設行事などで化粧や洋服でのおしゃれの支援を実施。月を決めて整髪に心掛け、外出時支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けは皆さんが手伝ってくれ、利用者も職員もねぎらいの言葉がみられる。職員がメニューや食材、料理をしている。利用者は片付けなど職員と一緒にやっている。行事食は、出張寿司や、前庭でのバーベキューなど楽しみな食事の支援している。	料理は、職員が担当しており、利用者は片付けなど手伝っている。行事食は、出張寿司やボランティアによる蕎麦打ちなどで、前庭でのバーベキューも行っている。毎月1回喫茶を開店し、お好み焼きやどら焼き、おはぎ等で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重増加傾向のため、定期的に見直し、盛り付けや小皿を増やしている。個々の標準体重の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。動作が継続できる様に支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレは奥行きが広く、ゆったりしているが、便座が高い為自立している利用者も失敗することがある。	トイレは奥行が深く広くゆったりしている。利用者毎に排泄パターンを把握して、時間を見ながら声掛け誘導し、トイレでの自立した排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便を確認し、薬だけに頼らずに豆乳等を提供し、排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	概ね時間は決まっているが、本人様の体調や希望により変更したり、入居拒否の場合は無理強いせず、時間をずらして声掛けを行っている。	浴槽が2人用で大きく、洗い場も広くゆったりしている。入浴は週2回で、利用者の状況に合わせて個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時テレビを観ながらなど、個々に安心して眠りにつく習慣を大切にしている。日中の活動の声掛けを行い、休息は本人のペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日分ずつ内服管理をしている。毎日のバイタル測定。血圧・浮腫に気を付け、かかりつけ医と連携して、薬の調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や特手・不特手を理解しながら、家事・買い物支援に取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話の中で、利用者から「行きたい所などを聞き取り」し外出できるよう心掛けている。家族との外出や外泊も行っている。(お墓参りや自宅帰省)	日常的に近隣の散歩や外気浴をしている。外出行事は、門別競馬場や平取ダムで紅葉見学、いもっぺ広場で花火大会やなかよし広場のイベント、RUN伴、回転寿司など利用者の行きたいところへ外出支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かっている。外出時、買い物や食事を出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から電話がかかってくることもある。希望に応じて電話支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	わかりやすいトイレ表示や居間や居室に湿度計を使用し健康面に配慮している。壁紙は季節に応じた飾りを入居者をと一緒で作成して展示している。	共用空間は、天井が高く天窓があり、採光や風通しもよく、温度湿度に配慮し床暖房で暖かい。非常口は2カ所あり緊急時に配慮している。居間や食堂は、広くゆったりしており、利用者は日中の殆ど居間で寛いで過ごしている。壁には、利用者の作品や季節の飾りが掲示され、季節を感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれるスペースにはソファ等をおいているが、皆居間で過ごしている。居間のソファの位置を工夫しながら、気の合う同士座れるようにし、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたベットや馴染みの家具、写真等を持って来て頂いている。仏壇を置かれている方もいる。好きな写真を飾っている。	居室には、洋タンスと大きな収納があり、広い作りである。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自由に動けるよう配慮している。転倒が起きないように見守りを行っている。分かりやすい目印や名前を貼る等の工夫をしている。		